

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年10月17日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	農学部食料環境政策学科
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2024年9月18日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	カリフォルニア大学デービス校(日本語名) University of California, Davis(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2024年6月～2024年9月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月下旬～12 月下旬 2 学期: 1 月上旬～3 月中旬 3 学期: 3 月下旬～6 月中旬 4 学期: 6 月下旬～9 月中旬
学生数	約 38,000 人
創立年	1905 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (USD)	日本円	備考
授業料	8,500	1,387,989 円	5/1 までにオンライン上で一括払い
宿舍費	3,494	552,410 円	\$40/day(\$31:宿泊費、\$9:食費)
食費	348	55,713 円	外食
図書費	0	0 円	
学用品費	0	0 円	
携帯・インターネット費	33	5,116 円	
現地交通費	0	0 円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	132	21,157 円	学内・外のカフェでの勉強
被服費	201	32,166 円	留学中の服はすべて現地調達
医療費	0	0 円	
保険費	250	39,955 円	形態: 明大指定の保険(4 か月分)
渡航旅費	1,268	202,837 円	出国便)4 月上旬に購入 帰国)7 月末
ビザ申請費	523	83,734 円	
雑費	76	12,099 円	日用品(日焼け止め 3 本、電池)
その他	731	117,019 円	Davis Housing Service への支払い
その他	119	18,972 円	手数料、印刷代、お土産代
合計	15,675	2,529,167 円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:成田国際空港 目的地:サクラメント国際空港 経由地:ホノルル国際空港

復路 出発地:ロサンゼルス国際空港 目的地:成田国際空港 経由地:なし

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社:

料金:

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社:Hawaiian Airlines 料金:111,167 円

復路 航空会社:ZIPAIR 料金:91,670 円 ∴合計:202,837 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名:)

インターネット(サイト名:Booking.com/ZIPAIR)

その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舍等)

学生寮(寮の名前:) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

Davis Housing Service に手配を依頼した。

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私は三ヶ月間ホームステイをした。食事に関して、最初は朝食と夕食のみの契約だったが、外食が想像以上に高かったため、途中から三食付きの契約に変更した。朝食と昼食はセルフで、夕食はみんなで集まって食べるというシステムだった。ホームステイ代は、月初めにホストマザーに現金で支払った。ホストマザーは料理が趣味で、揚げ物レシピを揚げずに調理する等、できる限りヘルシーな料理を提供してくれた。彼女の家にはハウスルールが存在した。私の生活に大きく影響したものとしては、毎日夜 6 時に集合して夕食の支度を手伝うことや、日曜日にその週の(夕食の)予定を専用のホワイトボードに記入すること、夕食後のカードゲームなどが挙げられる。彼女は非常に活発な性格で、友人とのパーティーや遠出の用事にいつも誘ってくれた。私の滞在中にハウスメイトの入れ替わりが何回か起こり、計四人のハウスメイトと出会った。モロッコ人、韓国人、ドイツ人、日本人と出身国はバラバラで、職業も学生や政府の研究者といったように多様性にあふれていた。大変だったことは、洗濯が週に一回しかできなかったことだ。コミュニケーション不足によりタイミングを逃すと、同じ服を二週間着まわさなければならなかった。また、通学には自転車まで往復一時間かかる距離に位置していた。(大学が運営する無料バスに乗るという選択肢もある)

絶対に他人に振り回されたくないという人にホームステイを勧めることは出来ない。ホストマザーの都合で夕食の時間が前後したり、冷蔵庫の中身が寂しくなることがあった。また、とあるハウスメイトとホストマザーの仲が悪い時期は、間に挟まれて気まずい思いをした。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地で出会った友人や、自分よりもアメリカに詳しい日本人の友人から情報を教えてもらった。防犯対策としては以下の二つを取り入れた。第一に、荷物を常に持ち歩くこと。第二に、危ない地域や不審者には近寄らないことだ。大学が所在している地域のデービスでは、買い物中に自転車のパーツを盗まれたことがあった。自転車の貸付主の Davis Housing Service に相談すると、すぐに直してくれた。何か問題が起きたのはそれくらいで、デービスでは基本的に安心して生活することが出来た。一方、旅行で訪れたサンフランシスコやロサンゼルスでは、何度も怖い思いをした。ホームレスに自転車で付きまとわれたため、進路を変えて逃げるように彼から離れると、後ろから自転車で追いかけて食べ物を投げつけられた。彼はそのままいなくなったため、被害はそれだけで済んだ。また、電車で後ろに座ってきた男性が不審だったので席を離れると、彼は私が座っていた席に座り直し、こちらを見つめながら依然として不審な行動をとっていた。その時は友人と一緒にいたため、彼らと一旦その車両を降りて、別の車両に乗りなおした。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学、ホームステイ先どちらにもwifiがあり、通信環境に困ることはなかった。カフェや通学中、旅行先ではwifiが期待できないので、1か月5Gのe-simを3か月間契約していた。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地では基本的にクレジットカードを使っていた。ホームステイ代に関しては現金を用意しなければならなかったので、現地のATMから日本のカードで引き出した。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

顔用バック

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

私は4/27に自分で指定したクレジットカードで支払った。(5/1が学費納入の締め切り)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 12 単位以上の取得	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Elementary Statistics	統計学
科目設置学部・研究科	STA
履修期間	Summer session 1(6/24-7/31)
単位数	4 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 100 分が 4 回
担当教授	Andrew Farris
授業内容	統計検定 2 級レベルの内容 (カイ二乗検定、フィッシャー検定、t 検定など)
試験・課題等	週に一度、統計ソフトRを使って解く課題が出された。試験は中間テストが 1 回、期末テストが 1 回。英語で問題文が出され、英文で回答する方式。
感想を自由記入	出発前に日本語で統計学を独学していたので、それが非常に役立った。授業内では完全に理解できないこともあったので、録画配信を字幕付きで見て新たにノートをとるという方法で毎回復習していた。自分の知っている単語が、知らない使われ方をされていることが多く、最初は辞書が手放せなかった。知識を使えるレベルまで深掘された内容だったので、履修した甲斐があった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Principles of Microeconomics	ミクロ経済学
科目設置学部・研究科	ECN
履修期間	Summer session 2 (8/5-9/11)
単位数	4 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 100 分が 4 回
担当教授	Shahar Sansani
授業内容	①Economic Thinking ②Choice in a World of Scarcity ③Supply and Demand ④Elasticity ⑤Supply and Demand Applications ⑥Production and Costs ⑦Perfect Competition ⑧Monopoly ⑨Monopolistic Competition and Oligopoly ⑩Public Goods and Externalities ⑪Labor Markets (time-permitting) ⑫Income Distribution (time-permitting)
試験・課題等	週に 1 回課題が出された。内容としては、その週に学習したトピックに関連する練習問題であった。試験は中間テストが 2 回、期末試験が 1 回。英語で問題文が出され、図とともに英文で回答する方式。
感想を自由記入	単なる暗記ではなく、現象に合わせてモデルを使いこなすレベルまで教った。授業スピードが速く、テスト対策で復習に使えるような整ったノートはとれなかった。そのため、配信されたスライドを見ながら、テスト対策用の復習ノートを毎授業後に作成していた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Food in American Culture	アメリカの食文化
科目設置学部・研究科	AMS/FST
履修期間	Summer session 2 (8/5-9/11)
単位数	4 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式+チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 135 分が 3 回
担当教授	Stacey Anh Baran
授業内容	Food Science Technology(FST)よりも American Studies(AMS)の色が強い。知識蓄積型ではなく、思考系の授業。農学部で習う知識と社会問題を絡めた内容。皆さんがアメリカの授業として想定しているようなスタイル。(大量の予習+エッセイ+プレゼンテーション+ディスカッション) 週ごとに扱うテーマが変わる。 ①Intro to Food Studies ②Consumer Choice, Health, and Risk ③Gender Identity ④Racialized Consumption and Postcolonialism ⑤Food Insecurity and Sovereignty ⑥Food Futures
試験・課題等	毎週、指定された論文の指定箇所を読んでくるという課題が出された。(計 60 ページ以上)また、自国の文化の食事について紹介したスライドを作成する課題や、「料理における本物とは」をテーマに模擬授業をするという試験が課された。
感想を自由記入	毎回出される大量の論文に目を通すのが大変だった。人文科学系の論文だからか、知らない単語の出現率が高く、指定範囲すべてを読まなければ趣旨がつかめない論文が多かった。週に 2 回以上の発言が出席点だったため、授業内の自分が答えられそうな質問が来た際は、必死に挙手をした。週三日ある授業のうち、一日はディスカッションの時間だった。ネイティブに囲まれながら、その場で出される議題をすぐに飲み込み、自分の意見を踏まえながら発言するには苦労した。また、議題自体が私の思考の限界を超えていることがあり、日本語でも頭を抱える内容を英語でこなすことは難しいと感じた。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	語学試験の受験
	10月～12月	学内選考
留学開始年	1月～3月	出願、滞在先手配、ビザ申請
	4月～7月	ビザ取得、航空券購入、海外保険申請、履修登録、滞在先の確保
	8月～9月	
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私が留学先にカリフォルニア大学デービス校を選んだ理由は以下 3 点だ。1 点目は UC Davis が農学で世界的に有名な大学であり、そこで開講されている講義を体験してみたかったから。2 点目は、UC Davis に世界各国から集まっている優秀な学生と同じ環境に身を置いてみたかったから。3 点目は、アメリカのフードシステムの中で生活することで、実生活からも学びを得ることができると思ったからだ。以上 3 点の理由から、私はこの留学先を選んだ。

私は留学前、主に 2 点の準備を行った。1 点目は英語の勉強である。私は特にスピーキングに自信がなかったため、日常生活で使われるフレーズが集まったテキストを毎日音読して暗記した。リスニング対策としては、日常生活用と講義用に以下のような方法をとった。日常生活用には、メディア媒体を日本語版ではなく、英語版で視聴するようにした。講義を聞き取るための準備としては、coursera というアプリで、実際に海外大学の授業を受講した。2 点目は履修する講義内容を日本語で予習しておくことである。私は研究室の先生に勧められた本を使って、統計学とマイクロ経済学の予習を行った。留学中の講義において、英語ではすぐに理解できなかった範囲を日本語の知識でカバーすることができた経験から、私は日本語での事前予習を強くお勧めする。

留学に行くと、日本人と絶対に絡まないといった態度の学生をよく見かける。海外にいたとしても、日本人同士でつるんでばかりいては、英語面に関わらず、学びのチャンスを逃してしまう可能性が高いのは確かだ。しかしながら、時には自分だけでは解決できないような困難も訪れるのが留学だ。私は留学中に、精神面や安全面、勉強面において、数少ない同プログラムの仲間にも何度も助けられた。この留学は、友人を信頼することの大切さを私に教えてくれたのだ。みなさんもぜひ、「留学中に日本語を話してはならない」と固くなるのではなく、日本語でしか表現のできないようなトピックを友人と語り合うことで、リフレッシュする時間を設けてみてほしい。